

本部長の越後散策記（新発田）



去る4月7日（日）、桜も一際美しく咲き誇る中、新潟県新発田市の陸上自衛隊新発田駐屯地前にある新発田西公園を参拝しました。

この公園はここ新発田を衛戍地とする帝國陸軍歩兵第16聯隊、後備歩兵第16聯隊と歩兵第116聯隊の英霊を祀っています。歩兵第16聯隊は明治17年（1884年）6月に編成され、第2師団に隸属し明治廿七八年之役（日清戦役）では威海衛攻略戦等に参加、明治三十七八年之役（日露戦役）では遼陽会戦・沙河会戦・奉天会戦に参加し、特に遼陽会戦では「弓張嶺の夜襲」と呼ばれる夜襲戦を敢行しその名を轟かせます。

その後第13師団に隷属しシベリア出兵に従軍、その後宇垣軍縮により第13師団が廃止されたため、再び第2師団に隷属、昭和に入り満州事変、支那事変、ノモンハン事件に従軍、大東亜戦争では昭和17年（1942年）3月ジャワ攻略戦に参加し武勲を挙げますが、同年10月からのガダルカナル島の戦いそして昭和19年（1944年）1月からの雲南・ビルマ方面の戦いでは、それぞれの戦いで聯隊長が戦死、戦時編制の約2/3に当たる約2,000名が戦死・戦病死しますが、最後まで軍旗を奉じて激戦を戦い抜きました。後備歩兵第16聯隊は日露戦役に伴い後備兵（7年4月の常備兵役後召集された兵）で編成され旅順攻略戦等に参加、歩兵第116聯隊は支那事変に伴い歩兵第16聯隊留守隊を基幹として編成され、中支那の上海解囲戦、南京攻略戦、徐州会戦、武漢作戦、湘桂作戦等の激戦に参加しました。



新発田各聯隊の英霊は、元々五十公野にあった新発田陸軍墓地に葬られておりましたが、支那事変拡大により戦死者が増え、陸軍墓地が手狭になったため、昭和17年頃からこの地で「納骨堂」とともに「合同忠霊塔」を建設し、御霊を祀ることとなりました。「納骨堂」にはジャワ及びガダルカナル島での戦いの上級部隊司令官であった今村均陸軍大将の揮毫で「忠霊」と刻まれています。



この「納骨堂」は、各戦役等で散華した英霊約1万5千余柱の御霊を祀っており、毎年5月上旬の越佐招魂祭において、納骨堂前にて慰霊祭が行われています。



この公園の中で一際大きく目を引く忠魂碑は「越佐招魂碑」です。明治31年（1898年）に建立、約10mの剣の刃型を型どり、碑文には征清大総督であった小松宮彰仁親王殿下の御真筆が刻まれています。





公園内にはその他にも「日露戦役忠霊塔」「西伯利亚出征戦病没者残骨灰埋葬之地」「ガダルカナル島戦記念碑」「慰霊平和塔 ビルマ従軍」「歩兵第16聯隊軍旗奉焼之碑」が建立され英霊の御霊を祀っておりますが、正面にある陸上自衛隊新発田駐屯地の同胞をひっそりと見護ってくれているような気がしてなりませんでした。

咲き誇る桜の中、私も各忠霊塔を一つ一つ廻り、英霊に心から敬意を込め、深甚なる感謝の誠を捧げ、悠久なる日本の平和を祈りました。英霊の皆様、御命と引き換えに祖國日本を御護りくださり、誠にありがとうございました。皆様のおかげで我々は今日も平和に過ごすことができます。今日の平和を思うとき、この平和を護るために祖國の御楯となり散華された皆様の尊い礎を、我々は決して忘れません。どうか安らかにお眠りされるとともに、日本の行く末を見護りください。深く深く感謝致します。ありがとうございました。

